

いざよいかんげつでん しゅうへん けいかん
「十六夜観月殿と周辺の景観」 町指定（名勝）

所在地：大字網掛 所有者：大国魂社 管理者：網掛十六夜観月保存会 指定：昭和50年3月6日

十六夜観月殿は俗に十六夜堂または月見堂ともよばれます。この堂のある所は^{おおくにたましや}大国魂社の社殿の東側にあたり、^{こらくじょう}狐落城跡遊歩道の起点です。千曲川の清流を眼下に望み、旧村上郷をはじめ、坂城盆地全域を一望のもとにおさめ、遠く東北信の山々^{なが}を眺め得て、^{ふうこうぜつけい}風光絶佳、^{しやうち}観月の勝地として知られています。

^{いざよい}既望十三景（大国魂社文書、江戸時代）

^{ふくせんじ}福泉寺の晩鐘 ^{ぼんしやう}狐落の楼鴉 ^{こらく}既望の秋月 ^{きはん}千曲の帰帆 ^{とがくし}戸隠の暮雪 ^{びんぐし}鬢櫛の晴嵐 ^{よこぶき}横吹の兵列（大名行列） ^{ろうかく}大国魂社の楼鶴 ^{よおち}猪落の夜雨 ^{たろうやま}太郎山の横霧 ^{せんけい}岩鼻の戦蛩 ^{えびじま}鰐島の落雁 ^{みやおき}宮沖の熟稻

^{さらしなぐんし}既望山八景（更級郡誌、明治後半頃）

^{かつらお}葛尾の晴嵐 ^{いざよい}十六夜の秋月 ^{よおち}猪落の夜雨 ^{きはん}千曲の帰帆 ^{ふくせんじ}福泉寺の晩鐘 ^{えびじま}鰐島の落雁 ^{せきしやう}太郎山の夕照 ^{とがくし}戸隠の暮雪

この地は十六夜の名月を賞し、^{はいかい}俳諧に親しむ^{ゆうじんがかく}遊人雅客が多く訪れる場所であって、^{ていぜん}庭前には^{ぼしやう}芭蕉塚のほか、多くの^{くひ}句碑が林立しています。

^{かんじ}寛治8年（1094）^{みなもとともきよ}源盛清は^{るざい}信濃の村上郷に^{はいしよ}流罪となり^{なぐさ}配所の月を、ここで眺めて心を慰めたと里人は伝えます。

後に^{むらかみみつよ}村上満清は、ここに観月殿を建て、名月を賞し遊楽の場としたとも伝えられていますが明らかではありません。

^{かんえい}寛永年間に郷人が資金を集め再建しています。^{あんせい}安政3年（1856）^{みやざきでんざえもん}俳人、宮崎伝左衛門（^{しゆんろう}春朗）、^{かねこ}金子^{ちゆうざえもん}忠左衛門（^{ことぶき}寿）等が資を集めて、再々建して現在に至っています。

いさよいもまた更級の郡かな 芭蕉
^{いざよい}既望や山高からす低からす 春朗
いさよいや冴る間もなし星の空 寿

